

苫小牧市長 岩倉 博文 様

2022年12月22日

新社会党北海道本部

執行委員長 渋谷 澄夫

米国艦船の苫小牧港寄港に反対する申し入れ書

貴職におかれましては、日ごろから市民生活の向上と、安全・平和な暮らしの拡充にご尽力されていることに対し、心から敬意を表します。

しかし最近の市民生活にとっては、一向に収束する気配がない新型コロナウイルスと、日々値上げが続き生活を脅かす物価高と、毎日報道される自民・公明政権による驚異的な軍備増強政策と、そのための増税を伴う軍事予算の拡大が、平和と安心を求める市民生活の脅威となっています。敵基地攻撃(反撃能力)やミサイル防衛力強化などを含む軍備増強策は、まさに「戦争前夜」の様相を国民に植え付けています。

この様な戦争への恐怖が蔓延する中、2023年1月30日から5日間にわたって、苫小牧港へ米国海軍ミサイル駆逐艦「ラファエル ペラルタ」の入港予定が明らかになりました。この入港を認めることは、平和で安心な生活を求める市民・道民・国民の意識と全くかけ離れたものであると共に、民間商工業港である苫小牧港の軍事利用であり、将来的には核兵器搭載を含む米国艦船の母港化が懸念されるなど、決して容認できるものではありません。

従いまして、以下の点について強く要請しますので、真摯に受け止めていただきますようお願いいたします。

記

1. 苫小牧港港湾管理者として、米国艦船の入港を認めないこと。
2. 相次ぐ米国艦船の入港寄港について、国に対して中止を求めること。
3. 核兵器搭載の有無については、徹底した情報公開を求めること。
4. 日本の独立性を失っている「日米地位協定」の見直しについて、強く国に働き掛けること。

以上